

【事業名】 BaaS実現を目指した、バッテリー診断・流通システムの実証

事業者名：AZAPA株式会社

実施期間：令和7年9月～令和8年2月

1. 事業の背景・目的

背景: バッテリーを寿命前に取り外して二次利用（リユース）する仕組みを推進する上で、これまでは利用履歴が適切に管理されておらず、残存価値の不確実性が流通の障壁となっていました。

目的: ブロックチェーン技術を用いて、バッテリーの劣化状態（SOH）や充放電などの使用履歴を「電池パスポート」として確実に保存・管理し、データの改ざんを防ぐことです。これによりバッテリーの健康状態を可視化して公正な残価評価を可能にし、バッテリーの「証券化」や中古市場での取引に信頼性をもたらして、リユース・リサイクルを加速させます。

2. 補助事業の概要

本事業では、車両、EV充電器、バッテリー交換ステーションを石垣島実証フィールドに設置し、それらから得られるバッテリーの使用履歴や移動履歴をAZAPAクラウドに連携、ブロックチェーンで管理するシステムを構築した。

また、BaaSを実現するために投資家が売買できるアプリを開発し、実際のバッテリーの取引を行った。

AZAPAクラウドでは、両履歴からバッテリー診断・残価推定を行い、投資家への価値情報を提供する仕組みを構築し、検証を行った。

